

施策評価調書(1)

評価対象年度 令和元年度

めざす姿	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち”
施策名	3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進
施策関係課	(環境部)資源循環課・産業廃棄物対策課・新戸塚環境センター建設室・収集業務課・戸塚環境センター・朝日環境センター・リサイクルプラザ・鳩ヶ谷衛生センター

●施策の基本方針(目標)

廃棄物の発生抑制や適正な処理、循環資源利用の促進により、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷をできる限り低減した循環型社会の形成を推進します。

●目標指標

指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査)			単位	%	指標の種別	成果
	目標値	現状値を上回る(令和2年度)		現状値	47.1(平成27年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	46.3	45.2	45.9	42.4			
	名称	1人1日あたりの廃棄物排出量			単位	g/人・日	指標の種別	結果
指標②	目標値	864(令和2年度)		現状値	876(平成26年度)		達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値	850	832	826	826			
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
指標③	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
指標④	実績値							
	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							
指標⑤	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	
	年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(目標年度)		
	実績値							

*「達成状況」: 目標年度に判定します。(目標値達成を「達成」、目標値未達を「未達成」)

	(単位:千円)	平成28年度決算額	平成29年度決算額	平成30年度決算額	令和元年度決算額	令和2年度予算額
事業額	事業費	4,832,325	4,819,276	4,938,171	5,170,963	5,413,697
	概算人件費	1,375,546	1,387,180	1,500,488	1,500,883	1,498,355
	総事業費	6,207,871	6,206,456	6,438,659	6,671,846	6,912,052

*前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 53	単位施策② 54	単位施策③	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			53.5	

施策評価調書(2)

評価対象年度 令和元年度

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

① 廃棄物の減量化・再資源化									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和元年度の総評価	令和2年度の実施方向性
			事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(決算額)	事業費(予算額)		
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
43100101	クリーン推進員事業	環境部	14,203	16,146	14,215	15,680	14,799	54	現状維持で実施
		資源循環課	32,800	4,680	2,607	4,898	2,923		
43100201	全市一斉クリーンタウン作戦事業	環境部	773	675	655	944	1,247	50	現状維持で実施
		収集業務課	5,576	4,524	4,582	4,582	4,582		
43100301	散乱防止及び環境美化促進事業	環境部	289	202	199	440	406	53	現状維持で実施
		収集業務課	9,020	7,488	7,584	7,584	7,584		
43100401	不法投棄対策事業	環境部	3,128	5,940	9,077	17,700	44,163	52	拡充して実施
		収集業務課	36,900	33,540	33,970	33,970	33,970		
43100501	エコリサイクル推進事業所登録事業	環境部	46	49	46	45	58	54	現状維持で実施
		資源循環課	8,200	7,800	7,900	7,900	7,900		
43100601	廃棄物対策審議会経費	環境部	152	268	261	428	406	53	現状維持で実施
		資源循環課	2,050	1,950	1,501	1,975	1,975		
43100701	路上喫煙防止事業	環境部	9,777	10,624	10,518	12,513	15,572	54	拡充して実施
		資源循環課	4,182	4,290	7,505	6,715	6,715		
43100801	廃棄物減量啓発事業	環境部	10,071	10,527	10,542	9,506	17,520	54	拡充して実施
		資源循環課	24,600	23,400	23,700	23,700	23,700		
43100901	レジ袋削減事業	環境部	292	307	396	154	355	49	現状維持で実施
		資源循環課	8,200	15,600	15,800	15,800	15,800		
43100951	事業系廃棄物対策事業	環境部	1,165	834	614	428	801	54	現状維持で実施
		資源循環課	24,600	23,400	24,095	24,885	24,885		
43101001	ごみ処理事業	環境部	887	861	1,032	1,247	1,514	52	現状維持で実施
		収集業務課	1,230	936	948	948	948		
43101101	資源回収団体助成事業	環境部	136,302	130,013	124,038	118,226	124,126	53	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43101201	3R推進活動等助成事業	環境部	68,253	68,235	68,200	68,076	68,925	53	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	2,870	3,510	3,555	3,555	3,555		
43101301	一般ごみ収集運搬事業	環境部	848,965	844,863	845,106	860,889	920,922	52	現状維持で実施
		収集業務課	503,840	476,880	482,880	482,880	482,880		
43101401	粗大ごみ収集運搬事業	環境部	130,723	134,049	132,924	134,596	145,689	52	現状維持で実施
		収集業務課	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43101501	小動物死体収集運搬事業	環境部	7,086	5,250	5,795	7,478	8,680	52	現状維持で実施
		収集業務課	6,560	6,240	6,320	6,320	6,320		
43101601	資源物回収事業	環境部	454,194	451,300	451,514	459,352	505,336	52	現状維持で実施
		収集業務課	493,360	473,520	475,720	475,720	475,720		
43101701	環境啓発事業	環境部	2,202	2,250	2,068	2,489	2,589	54	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	9,020	7,410	7,505	7,505	7,505		
43101801	リサイクルプラザ健康浴室等運営費	環境部	61,386	62,501	68,834	84,827	86,775	54	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	5,740	5,460	5,530	5,530	5,530		
43101901	再商品化委託事業	環境部	22,772	23,351	21,576	20,414	23,081	54	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	2,460	2,340	2,370	2,370	2,370		
43102001	資源物等選別事業	環境部	173,442	171,902	178,159	179,428	193,401	56	現状維持で実施
		リサイクルプラザ	23,780	22,620	22,910	22,910	22,910		

単位施策名 ② 廃棄物の適正処理の推進									
事業コード	事業名称	担当課	平成28年度 事業費 (決算額)	平成29年度 事業費 (決算額)	平成30年度 事業費 (決算額)	令和元年度 事業費 (決算額)	令和2年度 事業費 (予算額)	令和 元年度 の 総評価	令和 2年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
43200101	車両経費	環境部	105,987	112,020	110,594	102,791	47,611	54	縮小して 実施
		収集業務課	2,870	3,510	3,555	3,555	3,555		
43200111	産業廃棄物対策事業	環境部	—	—	16,857	5,782	4,098	58	現状維持 で実施
		産業廃棄物対策課	—	—	49,375	43,845	42,265		
43200121	土砂堆積対策事業 (令和元年度から産業廃棄物対策事業 に統合)	環境部	—	—	102	—	—	—	—
		産業廃棄物対策課	—	—	7,900	—	—		
43200201	戸塚環境センター 整備事業	環境部	62,680	30,024	86,458	84,033	55,122	54	現状維持 で実施
		新戸塚環境センター建設室	26,076	31,746	73,628	73,786	73,786		
43200301	厚生会館施設管理費	環境部	12,911	13,180	14,157	15,582	40,720	50	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	1,476	624	632	632	632		
43200401	戸塚環境センター まつり開催事業	環境部	3,394	3,611	3,745	3,902	4,507	52	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	3,526	4,524	4,582	4,582	4,582		
43200501	戸塚環境センター プラント運営費	環境部	836,819	800,621	856,029	860,975	935,474	54	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	38,294	133,068	134,774	134,774	134,774		
43200701	戸塚環境センター ごみ処理事業	環境部	184,385	186,915	210,905	238,191	237,542	54	現状維持 で実施
		戸塚環境センター	16,400	8,268	8,374	8,374	8,374		
43200801	朝日環境センター プラント運営費	環境部	1,234,044	1,290,049	1,254,573	1,359,416	1,403,733	54	現状維持 で実施
		朝日環境センター	18,860	17,940	18,170	18,170	18,170		
43201001	朝日環境センター ごみ処理事業	環境部	206,675	192,029	180,403	194,425	207,603	52	現状維持 で実施
		朝日環境センター	4,100	3,900	3,950	3,950	3,950		
43201101	鳩ヶ谷衛生センター ごみ処理事業	環境部	35,449	38,436	37,198	38,018	41,173	54	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	27,140	28,138	28,309	25,465	25,465		
43201251	し尿処理施設管理費	環境部	186,081	195,214	205,157	213,386	220,588	54	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	15,416	14,664	14,852	15,405	15,405		
43201301	し尿収集事業	環境部	17,792	17,030	16,224	15,601	16,163	52	現状維持 で実施
		鳩ヶ谷衛生センター	8,200	7,410	7,505	7,505	7,505		
43201351	一般廃棄物処理 基本計画策定事業	環境部	—	—	—	9,240	—	54	休止
		資源循環課	—	—	—	2,923	—		
43201401	PCB廃棄物調査指導 事業	環境部	—	—	—	34,761	22,998	56	現状維持 で実施
		産業廃棄物対策課	—	—	—	10,270	14,220		

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100101	事業名称	クリーン推進員事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	クリーン推進員	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	地域住民と行政が一体となって活動することにより、ごみの排出抑制・減量化・資源化を推進するとともに環境美化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール違反、不法投棄に関する随時の報告、要望、相談への対応 ・年4回の報告書に対する対応 ・活動に必要な研修会の実施 		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> ・クリーン推進員の委嘱(感謝状贈呈式及び委嘱書交付式の開催、講演会の実施) ・市内10ブロックに分けての研修会の実施 ・クリーン推進員(新任)の研修を兼ねた施設見学会の実施 ・報告、相談への対応(随時) 	項目	実績	単位
		感謝状贈呈式及び委嘱書交付式参加者数	440	人
		ブロック別研修会参加者数	385	人
施設見学会参加者数	28	人		
事業の成果【定性的評価】	研修会の開催により、クリーン推進員の理解や意識が深まった。また、行政と市民をつなぐ地域のリーダーとして、啓発活動をした結果、ごみの排出抑制・減量化・資源化が推進され、あわせて環境美化が図れた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	講演会(研修会)			指標・目標値の説明(算定式)	日頃の活動の意義と資質の向上を図るため、講演会(研修会)を実施する。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			
指標②	名称	ブロック別研修会			指標・目標値の説明(算定式)	市内を10のブロックに分け、活動に密接な研修会を行う。また、地域の問題点や疑問点に関する情報の共有や意見交換を行う。				
	単位	回	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	1	達成	1	達成	1	達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	03細々目	クリーン推進員事業					
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度				
予算額(A)	17,308	14,945		16,449		14,799		16,449				
決算額(B)=(C)+(D)	16,146	14,215		15,680								
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0				
	一般財源(D)	16,146	14,215		15,680		14,799		16,449			
概算人件費(E)	4,680	2,607		4,898		2,923		2,923				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.33	0.00	0.62	0.00	0.37	0.00	0.37	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	20,826		16,822		20,578		17,722		19,372			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	ごみ対策に対する市民のニーズは年々高くなっており、必要不可欠な事業である。クリーン推進員の報告書には、外国籍市民に関するもの、町会・自治会非会員に関するものなど、他課にまたがる要望等が多くみられ、対応の難易度が高くなってきている。今後は関係各課と連携を図りながら効率的で効果的な対応を行なう。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100201	事業名称	全市一斉クリーンタウン作戦事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市飲料容器等の散乱の防止に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民等(市内各町会・自治会及び事業所)	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	1 市民による地域環境の清潔保持の習慣化 2 ごみのポイ捨ての撲滅	1 毎年11月の第3日曜日に、市民が自宅周辺の地域のポイ捨てごみを拾い、市が指定する一時集積所まで持参する。 2 上記方法で回収されたごみを市が回収し、市の施設で処理する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 実施日 令和元年11月17日(日) 2 一時集積所 市内101箇所(主に公園等公共施設) 3 上記一時集積所に市職員を1名ずつ配置し、市民が持参したごみをまとめ、回収した。	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	参加した市民に対し、地域環境の美化に対する意識を高め、そのための活動を習慣化させる動機を持たせる機会を作った。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	全市一斉クリーンタウン作戦参加人数			指標・目標値の説明(算定式)	市内各町会・自治会加入世帯数(「広報かわぐち」配布部数による)の約二割		
	単位	人	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	39,050	39,050	37,901	37,901			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	13,670	未達成	13,860	未達成	13,930	未達成	

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	01細々目	全市一斉クリーンタウン作戦事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度			
予算額(A)	1,013	1,012		1,350		1,247		1,247			
決算額(B)=(C)+(D)	675	655		944							
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0			
	一般財源(D)	675		655		944		1,247			
概算人件費(E)	4,524		4,582		4,582		4,582		4,582		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	5,199		5,237		5,526		5,829		5,829		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 /15
	市民との必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
50 /60	これまでは市広報誌・ポスター・キャスティブジョン・きらり川口情報メール・HPなどによりPRを行ってきた。今後もPR方法について工夫し、より多くの市民が参加することを目指す。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100301	事業名称	散乱防止及び環境美化促進事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市飲料容器等の散乱の防止に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市と「まち美化促進プログラム」に基づく協定を取り交わした団体	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	1 快適かつ安全な歩行空間の確保 2 地域環境の清潔の保持	1 市と協定を取り交わした団体が、協定に基づく指定された区域を清掃する。 2 市は、団体に対して、清掃用具の貸与、活動によって発生した廃棄物の回収等によって協力する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 市と協定取り交わし済みの団体が、自主的に地域清掃活動を実施した。 2 市は、団体からの要請により発生した廃棄物を回収・処理するとともに、清掃用具の貸与、ボランティア保険への加入によって、団体に協力した。	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	市民による自主的な清掃活動の実施により、地域環境の美化及び市民のポイ捨て防止の意識を向上させることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	環境美化活動団体数			指標・目標値の説明(算定式)	市内10地区に対し各4団体ずつとして設定				
	単位	個	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度	令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	21	未達成	20	未達成	17	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位									
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度	令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	02細々目	散乱防止及び環境美化促進事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	令和2年度		令和3年度			
予算額(A)	372	369		606	406		406			
決算額(B)=(C)+(D)	202	199		440						
財源※	特定財源(C)	0		0	0		0			
	一般財源(D)	202	199		440	406		406		
概算人件費(E)	7,488	7,584		7,584	7,584		7,584			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.96	0.00	0.96	0.00	0.96	0.00	0.96	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,690	7,783		8,024	7,990		7,990			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	12 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	足りなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	環境美化団体の意識の高揚及び実施区域の拡大のため、PRESS530に掲載するなど、新たな啓発方法の実施により、参加団体活動の活性化と団体数の増加を図る必要がある。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100401	事業名称	不法投棄対策事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民等	受益者(最終的に受益を受ける人) 同左	
事業の概要	事業の目的(何のために) 粗大ごみ等の不法投棄及び市の排出ルールが守られないごみ集積所に対し、環境の改善及び保持を図る。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) 1 職員によるパトロール及び不法投棄物等の回収 2 業務委託による監視・回収 3 毎年6月の「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」における啓発活動	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 1 職員によるパトロール及び不法投棄物等の回収を、土日祝日を除き毎日実施した。 2 業務委託による監視を、合計143日間実施した。 3 「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」において、市内各駅頭にて啓発活動を実施した。	主な実績 項目 実績 単位	
事業の成果 【定性的評価】	ルール違反が特にひどいごみ集積所において、職員によるパトロール及び回収並びに委託による定点観測カメラの設置や定曜日以外にも収集を行い、ごみが散乱した状態は減少している。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	不法投棄処理件数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度処理実績(4,893件)の95パーセント				
	単位	件	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値					3,136	2,885	4,648	5,273	
	実績値・達成状況	3,037	達成	4,893	未達成	5,551	未達成			
指標②	名称	不法投棄処理量			指標・目標値の説明(算定式)	前年度処理実績(199.57トン)の95パーセント				
	単位	トン	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値					210.90	179.66	189.59	213.47	
	実績値・達成状況	189.12	達成	199.57	未達成	224.70	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	005細目	03細々目	不法投棄対策事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	6,541	9,748		18,728		44,163	32,032				
決算額(B)=(C)+(D)	5,940	9,077		17,700							
財源※	特定財源(C)	0		0		17					
	一般財源(D)	5,940	9,077		17,700		44,146				
概算人件費(E)	33,540	33,970		33,970		33,970	33,970				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	4.30	0.00	4.30	0.00	4.30	0.00	4.30	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	39,480		43,047		51,670		78,133	66,002			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	11 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	次年度において、不法投棄監視業務委託は、中国語で会話できる者1名を含め、2名体制にて監視日数を年間143日から208日に増やし、また、不法投棄回収業務委託についても毎週7箇所から10箇所を増やして実施する。	2年度	拡充して実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100501	事業名称	エコリサイクル推進事業所登録事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市エコリサイクル推進事業所登録実施要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民及び登録事業所	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	地球環境にやさしい事業所を「川口市エコリサイクル推進事業所」として認定し、市民がそれを利用することにより、循環型社会の形成に寄与する。	市内でごみの減量やリサイクル、地球温暖化対策を積極的に推進している事業所を「川口市エコリサイクル推進事業所」として認定、登録標示を交付し地域に貢献する企業として広く市民に周知する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 制度の啓発ポスターを作成し、登録事業所、公共施設及び市内掲示板に掲示した。 川口市公式ホームページで「環境にやさしい事業所」として、広く市民に周知した。 	項目	実績	単位
		ポスター作成	1,250	枚
ホームページで周知	1	回		
事業の成果【定性的評価】	事業者自ら廃棄物の適正処理及び地球温暖化対策に関する積極的な取り組みがみられた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	ポスターの掲示			指標・目標値の説明(算定式)	制度の啓発ポスターを作成し、登録事業者、市内掲示板及び公共施設に掲示(1回/年)				
	単位	回	指標の種別	活動		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	1 達成	1 達成	1 達成	1 達成					
指標②	名称	ホームページでの周知			指標・目標値の説明(算定式)	川口市公式ホームページで「環境にやさしい事業所」として、広く市民に周知				
	単位	年	指標の種別	活動		令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	1 達成	1 達成	1 達成	1 達成					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	002細目	02細々目	エコリサイクル推進事業所登録事業			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	62	56	56	58	58					
決算額(B)=(C)+(D)	49	46	45							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	49	46	45	58					
概算人件費(E)	7,800	7,900	7,900	7,900	7,900					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	7,849	7,946	7,945	7,958	7,958					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	事業者及び市民への周知を図るため、ホームページやPRESS530を活用した広報活動を展開する。また、集客力の高い大型店舗の登録を進め、啓発効果を高める。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100601	事業名称	廃棄物対策審議会経費	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 7 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	廃棄物対策審議会委員	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	一般廃棄物の減量及び適正な処理に関する事項を審議する。	学識経験者、市議会議員、市民、事業者、関係行政機関の職員を委員として、年3回程度の審議会を実施する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・審議会を5回開催 ・廃棄物対策審議会委員の委嘱 ・一般廃棄物処理基本計画の改定について審議	項目	実績 単位
		川口市廃棄物対策審議会	5 回
事業の成果 【定性的評価】	「食品ロスの削減の推進に関する法律」及び「プラスチック資源循環戦略」等が策定されるなど、廃棄物を取り巻く情勢の変化や、本市の廃棄物の現状及び推移等を踏まえ、一般廃棄物処理基本計画の改定について審議ができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	1人1日当りごみ排出量(集団資源回収含む)			指標・目標値の説明(算定式)	排出量(集団資源回収を含む)÷人口÷365日 (第6次川口市一般廃棄物処理基本計画)				
	単位	g/人・日	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	894	884	874						
		832	達成	826	達成	826	達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	003細目	01細々目	廃棄物対策審議会経費			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	305	305	406	406	406					
決算額(B)=(C)+(D)	268	261	428							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	268	261	428	406					
概算人件費(E)	1,950	1,501	1,975	1,975	1,975					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.25	0.00	0.19	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	2,218	1,762	2,403	2,381	2,381					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
53 /60	法定により審議会を設置し、令和元年度は川口市一般廃棄物処理基本計画の改定において、市長からの諮問・市長への答申を実施した。今後も、一般廃棄物の減量及び適正な処理に関する事項や市の施策等について、委員の意見を聴く重要な会議であることから継続して開催する。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100701	事業名称	路上喫煙防止事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 17 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市路上喫煙の防止等に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民並びに市内滞在者及び通過者	左に同じ	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	道路等における喫煙マナー及び環境美化意識の向上を図り、吸い殻の散乱を防止し、安全で快適な歩行空間及び清潔な地域環境を確保する。	・路上喫煙禁止地区に毎日(午前・午後を隔日、三が日は休み)2名のパトロール員を配置し、川口駅は3時間、西川口駅、東川口駅は2時間、路上喫煙禁止の啓発と指導を行っている。 ・市民等全体への啓発活動として、毎年12月に川口、西川口、東川口の各駅の禁止地区及び蕨駅周辺でキャンペーンを実施。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・路上喫煙禁止地区内で、委託による喫煙者への指導、路面シールなどの設置を行った。 ・12月2日から5日にかけて川口駅、西川口駅、東川口駅、蕨駅東口の川口市域で啓発キャンペーンを実施した。	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	啓発活動を継続的に実施した結果、巡回パトロールによる指導者数は目標に届かなかったものの、指導人数は減少している。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	喫煙禁止地区内での喫煙者指導人数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度指導実績の90%(100人未満切り上げ)				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	3,133	達成	2,158	達成	2,137	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	004細目	01細々目	路上喫煙防止事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	10,905	11,809		12,541		15,572		15,572		
決算額(B)=(C)+(D)	10,624	10,518		12,513						
財源※	特定財源(C)	0		0		0				
	一般財源(D)	10,624		10,518		12,513		15,572		
概算人件費(E)	4,290		7,505		6,715		6,715		6,715	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.55	0.00	0.95	0.00	0.85	0.00	0.85	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	14,914		18,023		19,228		22,287		22,287	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	路上喫煙禁止地区内での喫煙者への指導件数は減少傾向だが、路上喫煙防止についての要望等は多く寄せられており、喫煙マナー向上に向けた啓発を継続していく必要がある。また、健康増進法の一部改正に伴う国や他自治体の動向を注視し、副流煙苦情のある喫煙所改修や路上喫煙禁止地区拡大など今後の事業に反映させていく必要がある。	2年度 拡充して実施 3年度 拡充して実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 元年度

事業コード	43100801	事業名称	廃棄物減量啓発事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民及び事業者	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	資源循環型社会実現のための情報提供を行い、ごみの減量やリサイクルの推進を図ることで、市民一人ひとりにごみ問題や資源の有効利用の理解を深めてもらうため。	<ul style="list-style-type: none"> 環境部広報紙PRESS530を年3回発行 ごみの分別ガイドアプリの公開 家庭ごみの分け方・出し方のパンフレット作成 ごみの減量啓発のパンフレット作成 環境問題に対する周知や啓発活動 	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	<ul style="list-style-type: none"> 環境問題に関するチラシ、啓発グッズ等の作成・配布 メールや環境部広報紙による情報発信 環境にやさしい調理法でのクッキング教室の開催(3月) 災害廃棄物の特集、脱プラスチックの啓発などを新たに行った。 	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	消費税率改定に合わせて「家庭ごみの分け方・出し方」の内容を一部改訂して発行したことや、災害廃棄物に関する啓発など、市民のニーズに合わせて事業を進めることが出来た。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	3R月間各種イベントの参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	3R推進月間中に行なわれるイベント参加者数の過去三年間の平均値					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	1,400		1,000		800		532			
	実績値・達成状況	472	未達成	734	未達成	389	未達成				
指標②	名称	家庭ごみ収集日情報メール配信登録者数			指標・目標値の説明(算定式)	前年度の数値に600人(50人×12ヶ月)の数値を足したもの					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	4,057		4,725		5,844		6,617			
	実績値・達成状況	4,125	達成	5,244	達成	6,168	達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	01細々目	廃棄物減量啓発事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	11,749	11,288		11,319		17,520		17,520		
決算額(B)=(C)+(D)	10,527	10,542		9,506						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	10,527		10,542		9,506		17,520		
概算人件費(E)	23,400		23,700		23,700		23,700		23,700	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	3.00	0.00	3.00	0.00	3.00	0.00	3.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	33,927		34,242		33,206		41,220		41,220	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	食品ロスや脱プラスチックなど、全国的に注目度の高い環境問題に関する啓発も市で行っていく必要がある。今現在も行っているごみの減量啓発と関連させて広く市民に啓発を行い、環境問題への関心を高めたい。	2年度 拡充して実施 3年度 拡充して実施 4年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100901	事業名称	レジ袋削減事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	048-228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 20 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市レジ袋の大幅な削減に向けた取組の推進に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) 市民、事業者	受益者(最終的に受益を受ける人)	市民												
事業の概要	事業の目的(何のために) 消費者及び事業者により削減可能なレジ袋の大幅な削減をすることにより、ごみ発生源での減量の促進を目的としている。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・対象事業者から年2回提出される「レジ袋削減取組結果報告書」により削減状況の把握。(削減取組は平成29年度に提出された「レジ袋削減取組計画書」に基づき平成29年度から平成31年度の3か年で取り組んでいる。) ・市民に対するマイバッグ利用促進等の啓発。													
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・対象事業者からレジ袋削減計画書と、年2回削減状況報告書の提出を受けた。 ・5月に戸塚環境センターが開催したごみまるまつり、7月に環境フェスタ、1月に市内小売店の店内でレジ袋削減啓発のキャンペーンを実施した。	主な実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業所より年2回、取組報告書の提出</td> <td>2</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>パネル展示等の削減啓発キャンペーン実施</td> <td>3</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>市内施設、市内掲示板にポスターの掲示</td> <td>1,010</td> <td>箇所</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	単位	事業所より年2回、取組報告書の提出	2	回	パネル展示等の削減啓発キャンペーン実施	3	回	市内施設、市内掲示板にポスターの掲示	1,010	箇所
項目	実績	単位													
事業所より年2回、取組報告書の提出	2	回													
パネル展示等の削減啓発キャンペーン実施	3	回													
市内施設、市内掲示板にポスターの掲示	1,010	箇所													
事業の成果 【定性的評価】	レジ袋の削減を図ることで、廃棄物の発生量や温室効果ガス排出量の抑制、市民及び事業者の意識向上を図り、もって地球温暖化防止及び廃棄物循環型ごみゼロ社会の形成に寄与する。														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	レジ袋辞退率			指標・目標値の説明(算定式)	条例に基づき、提出された概況確認書及び下半期報告書の実績値(単位:%)				
	単位	%	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	23.30	未達成	25.70	未達成	27.30	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況				60	60				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	02細々目	レジ袋削減事業			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	390	409	394	355	355					
決算額(B)=(C)+(D)	307	396	154							
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0					
	一般財源(D)	307	396	154	355					
概算人件費(E)	15,600	15,800	15,800	15,800	15,800					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00	2.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	15,907	16,196	15,954	16,155	16,155					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待以下	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性						
49 /60	令和2年7月からレジ袋有料化が義務化されるが、それ以後も、一定の期間において条例に基づき、事業を継続していく。今後は、国や県の動向に注視し、本事業の方向性を考えていく必要がある。	<table border="1"> <tr> <td>2年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> </table>	2年度	現状維持で実施	3年度	現状維持で実施	4年度	現状維持で実施
2年度	現状維持で実施							
3年度	現状維持で実施							
4年度	現状維持で実施							

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43100951	事業名称	事業系廃棄物対策事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 47 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内で事業活動を行なう全ての事業者	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物の発生抑制、再生利用の促進などの適正処理を啓発し、事業者が適正処理をすることにより、地域の生活環境の保全、公衆衛生の向上及び循環型社会の構築を推進する。もって市民の健康で快適な生活を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物収集運搬業(ごみ・粗大、し尿・汚泥)の許可、指導 浄化槽清掃業の許可、指導 事業者への適正処理の啓発、指導 新規事業所の再生利用対象物、廃棄物保管場所の設置届の受理 	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	NTTタウンページデータによる新規登録事業者、川口商工会議所会員、鳩ヶ谷商工会、多量排出事業者にリーフレットを配布し適正処理を促した。また、保健所と連携し、西川口駅周辺の店舗訪問指導を行うとともに、食品営業許可更新講習会において、廃棄物の適正処理の説明を実施。	項目	実績 単位
		適正処理周知(リーフレット配布)	11,607 件
事業の成果【定性的評価】	事業系一般廃棄物の適正処理の周知が図られた。		
		保健所との店舗訪問指導	428 件
		食品営業許可更新講習会における説明	223 件

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	一般廃棄物収集運搬業許可業者契約増減数			指標・目標値の説明(算定式)	市内事業者と一般廃棄物収集運搬業許可業者の契約総件数の5%を次年度の目標値とする。					
	単位	件	指標の種別	結果							
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	239		254		279					
	実績値	289	達成	380	達成	461	達成				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位	指標の種別									
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	02目	005細目	04細々目	事業系廃棄物対策事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	1,554	1,726		586		801		801		
決算額(B)=(C)+(D)	834	614		428						
財源※	特定財源(C)	0		0		22				
	一般財源(D)	834		614		428		779		
概算人件費(E)	23,400		24,095		24,885		24,885		24,885	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	3.00	0.00	3.05	0.00	3.15	0.00	3.15	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	24,234		24,709		25,313		25,686		25,686	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	事業系一般廃棄物の処分方法について、適正処理を認識していない事業者があり、これらの事業者に適正処理の方法を周知徹底することが課題である。平成30年度より保健所と連携をとり、合同でこれらの事業者へ周知啓発や訪問指導を実施した。平成31年度より条例を改正し、過料規定を新設。周知啓発や訪問指導時の罰則周知に有効であり今後も改善実施する。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101001	事業名称	ごみ処理事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	446-7525	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 12 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、特定家庭用機器再商品化法、使用済自動車の再資源化等に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市内ごみステーションに排出された不法投棄物、ルール違反ごみ等のうち、市の施設で処理できないもの	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内ごみステーションに排出された不法投棄物のうち、市の施設で処理することができないものの処理ルートを確認し、不法投棄物回収事業の円滑な実施を図るもの	1 「家電リサイクル法」対象の家庭用機器の処理 2 「自動車リサイクル法」対象の自動二輪等の処理 3 自動車タイヤ、廃金属、消火器等処理困難物の処理	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	1 「家電リサイクル法」対象機器11.05トンを処理した。 2 その他、自動車タイヤ86本、廃金属等産業廃棄物1500kg、消火器83本を処理した。	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	回収された不法投棄物を処理することにより、市の廃棄物処理施設の空間的余裕を確保し、市による不法投棄物の回収事業を円滑に実施できるようにした。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	006細目	01細々目	ごみ処理事業	
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	1,562	1,562	1,432	1,514	1,514			
決算額(B)=(C)+(D)	861	1,032	1,247					
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0			
	一般財源(D)	861	1,032	1,247	1,514			
概算人件費(E)	936	948	948	948	948			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.12	0.00	0.12	0.00	0.12	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,797	1,980	2,195	2,462	2,462			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	ごく少量ではあるが、処理しきれない回収物があり、その処理方法を検討する必要がある。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101101	事業名称	資源回収団体助成事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和 53 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市集団資源回収団体助成金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	集団資源回収登録団体(町会・自治会・子供会・婦人会・PTA等)	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	廃棄物の減量及び再資源化を促進し、ごみ問題に対する市民の意識の向上に資すること。	資源物(紙類、繊維類)を各団体で回収し、回収した資源物1kgに対して10円を助成している。申請は3か月ごと年4回に分けて申請する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	各団体が回収した資源物の回収量1kgに対して10円を助成した。	項目	実績	単位
		助成金	4	回
事業の成果【定性的評価】	廃棄物の減量及び再資源化が促進され、ごみ問題に対する市民の意識の向上とごみ処理に係る経費の削減に繋がった。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	団体登録数			指標・目標値の説明(算定式)	交付対象となる団体数(単位:団体)				
	単位	件	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度	令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況	422 達成		427 達成		433 達成				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位									
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度	令和2年度		令和3年度	
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	03細々目	資源回収団体助成事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	141,426	135,847		124,889	124,126	124,126				
決算額(B)=(C)+(D)	130,013	124,038		118,226						
財源※	特定財源(C)	0		0	0	0				
	一般財源(D)	130,013	124,038		118,226	124,126				
概算人件費(E)	3,900	3,950		3,950	3,950	3,950				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	133,913	127,988		122,176	128,076	128,076				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	登録団体数は増えているが、紙媒体から電子媒体への移行による回収量の減少により助成金の交付金額は年々減少傾向にある。また、古紙等の売却単価が著しく低下しており、回収業者において売買事業の取り止めや縮小等が検討されており、今後集団資源回収事業の継続について影響を及ぼすことが懸念される。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101201	事業名称	3R推進活動等助成事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 19 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	川口市3R推進活動等助成金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	補助金・負担金
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	町会及び自治会 (地方自治法(昭和22年法律第67号)第260条の2第1項に規定する地縁による団体のうち、市長が認めるもの)	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	地域住民が相互に協力して行う3R推進活動等に対して助成することにより、廃棄物問題に対する市民の意識の向上を図り、もって循環型社会の構築に資するとともに、地域コミュニティ意識の醸成に寄与することを目的とする。	地域住民が相互に協力して行う3R推進活動(一般廃棄物の減量化、再使用及び再資源化の推進に資する活動)並びに一般廃棄物の適正処理の推進、集積所の整備及び美化、不法投棄の防止、地域環境の美化に資する活動に対して、助成を行った。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	町会・自治会1団体に対して、加入世帯数×400円を助成(千円未満は切捨て)	項目	実績 単位
		助成金の交付	1 回
事業の成果 【定性的評価】	市民の廃棄物問題に対する意識の向上、循環型社会の構築及び地域コミュニティ意識の醸成を図ることができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	交付団体数			指標・目標値の説明(算定式)	交付対象となる町会・自治会の団体数(単位:団体)				
	単位	団体	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	231	231	231	231	231				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別								
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	007細目	01細々目	3R推進活動等助成事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	70,496	70,446		69,173		68,925	68,925			
決算額(B)=(C)+(D)	68,235	68,200		68,076						
財源※	特定財源(C)	0		0		0	0			
	一般財源(D)	68,235	68,200		68,076		68,925	68,925		
概算人件費(E)	3,510	3,555		3,555		3,555	3,555			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	71,745	71,755		71,631		72,480	72,480			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	本事業を通じて、廃棄物問題に対する更なる市民の意識向上とごみの減量化・地域の環境美化への実効性を高めるため、3Rの推進について継続的に情報の発信と提供を行う。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101301	事業名称	一般ごみ収集運搬事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の一般ごみ	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系一般ごみを、収集車両により収集し中間処理施設へ運搬する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭系から排出される一般ごみの収集運搬	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	適正な処理を行い、公衆衛生の向上に寄与することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	01細々目	一般ごみ収集運搬事業	
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
予算額(A)	844,864	845,835		861,260		920,922		920,922
決算額(B)=(C)+(D)	844,863	845,106		860,889				
財源※	特定財源(C)	0		0		0		
	一般財源(D)	844,863	845,106		860,889		920,922	
概算人件費(E)	476,880	482,880		482,880		482,880		482,880
従事職員人数(人)	常勤 再任用	60.00 2.40	60.00 2.40	60.00 2.40	60.00 2.40	60.00 2.40	60.00 2.40	60.00 2.40
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,321,743	1,327,986		1,343,769		1,403,802		1,403,802

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	収集業務は、通常の収集のほか、不法投棄対策の支援業務も実施した。今後、委託化基本方針に基づき、直営の適正な人員配置と委託化をあわせて実施していく。また、事故防止に係る事業を継続していく。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	効率化して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101401	事業名称	粗大ごみ収集運搬事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の粗大ごみ	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系粗大ごみを、予約の受付を行い、戸別収集中間処理施設へ運搬する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭から排出される粗大ごみの収集受付及び収集運搬	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	粗大ごみの収集受付を行い取り残しのないよう実施した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	指標の種別		指標・目標値の説明(算定式)		
	単位	指標の種別		指標・目標値の説明(算定式)		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称	指標の種別		指標・目標値の説明(算定式)		
	単位	指標の種別		指標・目標値の説明(算定式)		
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	02細々目	粗大ごみ収集運搬事業		
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度		
予算額(A)	136,289	134,343		138,608		145,689	145,689		
決算額(B)=(C)+(D)	134,049	132,924		134,596					
財源※	特定財源(C)	63,064	65,998		69,761		65,622		
	一般財源(D)	70,985	66,926		64,835		80,067		
概算人件費(E)	3,900	3,950		3,950		3,950	3,950		
従事職員人数(人)	常勤 再任用	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	137,949	136,874		138,546		149,639	149,639		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	当事業が、継続的・効率的に実施できるよう調査研究を行う必要がある。また、個人情報を取り扱っていることから、さらなる管理の強化に努める必要がある。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101501	事業名称	小動物死体収集運搬事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	道路上等にある小動物の死体	市民及び市内通行者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から寄せられる通報や連絡を受け、小動物の死体を収集し、中間処理施設へ運搬する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	犬、猫等の死体収集	項目	実績 単位
		収集運搬件数	1,697 件
事業の成果 【定性的評価】	速やかに対応できた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	03細々目	小動物死体収集運搬事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	9,202	7,461		8,001		8,680	8,680			
決算額(B)=(C)+(D)	5,250	5,795		7,478						
財源※	特定財源(C)	256	227		265		259			
	一般財源(D)	4,994	5,568		7,213		8,421			
概算人件費(E)	6,240	6,320		6,320		6,320	6,320			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.80	0.00	0.80	0.00	0.80	0.00	0.80	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	11,490	12,115		13,798		15,000	15,000			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	道路上などの公共施設からの収集に関する案件の他、庭先など私有地からの収集に関する案件が増えており、事前の聞き取りや十分な説明を行うことで市民ニーズに対応していく。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101601	事業名称	資源物回収事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民が排出する家庭系の資源物	市民	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般廃棄物処理実施計画に基づき、市内から排出される家庭系資源物を収集車両により収集し、中間処理施設へ運搬する。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	家庭から排出される資源物の収集運搬業務	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	適正な収集を行い、ごみの減量化・資源の有効活用に寄与することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	004細目	04細々目	資源物回収事業
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度
予算額(A)	453,650	452,193		459,846		505,336	505,336
決算額(B)=(C)+(D)	451,300	451,514		459,352			
財源※	特定財源(C)	0		0		0	
	一般財源(D)	451,300	451,514		459,352		505,336
概算人件費(E)	473,520	475,720		475,720		475,720	475,720
従事職員人数(人)	常勤 再任用	59.00 3.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60	59.00 2.60
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	924,820	927,234		935,072		981,056	981,056

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	集積所の数が増加している中、適正な人員配置及び配車により効率的な収集を行っている。しかし、今後も業務量が増えることが懸念されることから、委託化基本方針に基づき、直営の適正な人員配置と委託化をあわせて実施していく。また、資源物の持ち去り防止監視業務については、令和元年度に拡充した監視日数を継続し防止にあたる。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101701	事業名称	環境啓発事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律第4条

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民、市外からの来館者	施設利用者、受講者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	資源循環型社会実現のための情報提供を行い、ごみ減量やリサイクルの推進を図るもの。また、地球温暖化防止の取組みについての情報提供も行うもの。	ボランティアスタッフとの協働による啓発施設の管理・運営		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	施設見学、無償リサイクル品橋渡しコーナー、リサイクル家具類販売、朝いち親子フリーマーケット、おもちゃの病院、リサイクル工作教室、リサイクル作品展、ごみまるクイズ、図書コーナー、啓発ビデオ上映、リサイクルショップ大抽選会、など	項目	実績	単位
		施設見学	4,793	人
		朝いち親子フリーマーケット	11	回
リサイクル家具類販売	1,021	点		
事業の成果【定性的評価】	無償リサイクル品橋渡しコーナーや定例イベント、施設見学や展示による情報提供を実施し、ごみ減量とリサイクルの推進を図ることができた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	無償リサイクル品橋渡しコーナー来場者数			指標・目標値の説明(算定式)	リサイクルプラザ3階のリサイクルショップに来場し、品物を持ち帰った人の数(1人1日1回1点持ち帰り)の年間合計。目標値は平成27年度実績による。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	29,939 達成		31,695 達成		30,926 達成				
指標②	名称	リサイクル家具類販売来場者数			指標・目標値の説明(算定式)	リサイクル家具類販売の入札に参加した人数の年間合計。毎月第4日曜日(年間12回)実施。目標値は70人×12回。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	794 未達成		640 未達成		429 未達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	003細目	01細々目	環境啓発事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	2,792	2,844		3,509		2,589		2,589		
決算額(B)=(C)+(D)	2,250	2,068		2,489						
財源※	特定財源(C)	772		912		630				
	一般財源(D)	1,478		1,156		1,959				
概算人件費(E)	7,410		7,505		7,505		7,505		7,505	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	9,660		9,573		9,994		10,094		10,094	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	循環型社会の実現、地球温暖化防止などを啓発すべく、関連イベントを継続的に実施するのはもちろんのこと、これらのPRを一層拡充するため、更なる来館者の増加を図ってゆく。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101801	事業名称	リサイクルプラザ健康浴室等運営費	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	朝日環境センター余熱利用施設設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託		
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)			
	市民、特にごみ焼却処理施設周辺地域住民(市内、足立区等)	施設利用者(市民、市民以外)			
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)			
	朝日環境センター余熱利用施設「サンアール朝日」の運営を通して、周辺地域住民を中心とした市民に対し、心身の健康増進、ふれあい交流の場を提供する。	朝日環境センター余熱利用施設「サンアール朝日」の運営及び維持管理 ーサンアール朝日施設内容ー 20mプール、大プール、幼児用プール、ジャグジー浴、露天プール、採暖室、男女浴槽、サウナ、水風呂、日本間(休憩室) 等			
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績			
	サンアール朝日の営業(258日) パンフレット作成(1万部) 施設/設備の修繕(44件) 濾過機等設備点検(年4回) 各種設備機器のメンテナンス(常時) ほか	項目	実績	単位	
事業の成果 【定性的評価】	令和元年度利用者数			77,046	人
令和元年度、延べ77,046人の利用者があり、多くの人に心身の健康増進、ふれあい交流の場を提供することができた。					

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	年間利用者数			指標・目標値の説明(算定式)	入場者数の集計結果。利用券販売数と回数券利用者数の合計。				
	単位	人	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値					105,000	100,000	100,000	100,000	
	実績値・達成状況	103,356	未達成	91,706	未達成	77,046	未達成			
指標②	名称	年間使用料金			指標・目標値の説明(算定式)	利用券販売額(1年度の合計)				
	単位	円	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値					38,097,000	38,097,000	38,097,000	38,097,000	
	実績値・達成状況	39,413,480	達成	35,292,130	未達成	29,542,440	未達成			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	004細目	01細々目	リサイクルプラザ健康浴室等運営費				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	62,811	69,451		84,845		86,775	86,775				
決算額(B)=(C)+(D)	62,501	68,834		84,827							
財源※	特定財源(C)	39,413	40,005		40,465		40,924				
	一般財源(D)	23,088	28,829		44,362		45,851				
概算人件費(E)	5,460	5,530		5,530		5,530	5,530				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	67,961	74,364		90,357		92,305	92,305				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	オープンから18年以上が経過し、設備等の経年劣化による故障が多発してきているため、利益還元が滞らないよう、予防的な修繕や改修等を含め維持管理を徹底していく。また、接客等について、運営スタッフの意識向上に努め、利用者満足度の向上を図る。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43101901	事業名称	再商品化委託事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	容器包装リサイクル法(容リ法)

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	容器包装廃棄物のうちガラスびん、プラスチック製容器包装、ペットボトル	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	容器包装リサイクル法(容リ法)に基づき、廃棄物のうち容器包装廃棄物の再商品化を指定法人「公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会」(容リ協会)に委託することにより、廃棄物の減量及び再利用を促進し、もって循環型社会の構築を図る。	分別収集適合物のうち、事業者負担分は容リ協会との無償引取り契約、また市町村負担分については、有償の委託契約を締結、さらに引き取り対象外のカレット残渣についても有償で民間に再商品化を委託する。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	ガラスびん一部を売却しその他のびん、プラスチック製容器包装、ペットボトルを容リ協会へ引き渡した。ガラスびん分別後のカレット残渣については、民間に再商品化(路盤材利用)を委託した。	項目	実績	単位
		ガラスびん(茶色、その他色)引渡量	952,240	kg
		プラスチック製容器包装引渡量	3,050,960	kg
事業の成果 【定性的評価】	市が容リ協会へ引き渡した結果として、ガラスびん、プラスチック製容器包装、ペットボトルの再商品化が出来た。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	カレット残渣の発生抑制			指標・目標値の説明(算定式)	カレット残渣量 (トン) / びん搬入量 (トン) = カレット残渣率 %		
	単位	%	指標の種別	成果		令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	31.02	達成	31.22	達成	29.62	達成	

指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別			令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	01細々目	再商品化委託事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	26,654	26,727		24,042	23,081	23,081				
決算額(B)=(C)+(D)	23,351	21,576		20,414						
財源※	特定財源(C)	23,351	21,576		20,414	23,081				
	一般財源(D)	0	0		0	0				
概算人件費(E)	2,340	2,370		2,370	2,370	2,370				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	25,691	23,946		22,784	25,451	25,451				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	資源の再商品化にあたり、老朽化のため機械による選別では、以前のような精度が保たれなくなっている。ガラスびんをはじめ各種資源物の選別方法の改善を引き続き検討するとともに、老朽化した機械の更新計画を進める。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43102001	事業名称	資源物等選別事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	リサイクルプラザ	問い合わせ先	228-5306	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ① 廃棄物の減量化・再資源化
根拠法令等	容器包装リサイクル法(容リ法)

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	廃棄物のうち資源物11品目	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	容器包装リサイクル法(容リ法)に基づき、廃棄物のうち容器包装廃棄物を再商品化のため指定法人「公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会」に引き渡し、また入札により民間に売却を行なうことで、廃棄物の減量及び再利用を促進し、もって循環型社会の構築を図る。	プラスチック製容器包装、びん、飲料カン、金属類、ペットボトル、紙類の異物を取り除き、再商品化のため容リ協会へ引渡し及び民間に売却するための選別を行う。		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	資源物11品目の手選別を行い、びん、飲料かん、金属類、ペットボトル、繊維類、紙パック、新聞、雑誌雑紙、段ボール、紙製容器包装を民間に売却した。そのほか茶色とその他色びん、プラスチック製容器包装、ペットボトルを容リ協会へ引き渡した。	項目	実績	単位
		飲料かん(アルミ)売却量	895,810	kg
		飲料かん(スチール)売却量	245,130	kg
事業の成果 【定性的評価】	搬入された資源物を選別することで、ガラスびん(茶色、その他色)、プラスチック製容器包装、ペットボトルの一部を容リ協会へ引き渡し、それ以外の資源物を民間に売却できた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	飲料かんリサイクル率の向上			指標・目標値の説明(算定式)	売却量 (kg) ÷ 飲料カン搬入量 (kg) = リサイクル率 %					
	単位	%	指標の種別	成果							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況	82.29	達成	82.12	達成	82.93	達成				
指標②	名称	ペットボトルリサイクル率の向上			指標・目標値の説明(算定式)	売却、引渡数量 (kg) ÷ ペットボトル搬入量 (kg) = リサイクル率 %					
	単位	%	指標の種別	成果							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
	実績値・達成状況	85.62	達成	85.22	達成	85.82	達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	07目	006細目	02細々目	資源物等選別事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	174,504	179,881		181,968		193,401	189,859				
決算額(B)=(C)+(D)	171,902	178,159		179,428							
財源※	特定財源(C)	171,902	178,159		179,428		164,626				
	一般財源(D)	0	0		0		28,775				
概算人件費(E)	22,620	22,910		22,910		22,910	22,910				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	2.90	0.00	2.90	0.00	2.90	0.00	2.90	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	194,522	201,069		202,338		216,311	212,769				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	ペットボトルは中身の飲料やキャップ、ラベルを取り除いたものでなければ、資源物として引き渡すことができないため、市民への周知を図るべくプレス530への掲載、町会、自治会への働きかけや施設見学者への呼びかけを継続的に実施する。並行して老朽化した機械の更新計画を進める。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200101	事業名称	車両経費	事業区分	通常事業
担当	環境部	収集業務課	問い合わせ先	251-1174	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 23 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則、関連計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	直営の車両に係る管理、運営事業	市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物を適正に処理し、地域の清潔を保持することで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに資源が循環して利用される都市の形成を図り、もって市民の健康で快適な生活を確保することを目的とする。	一般ごみ、資源物に係る収集運搬		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	当該事業は公共性が高く、適正な業務の施行には安定かつ継続的な収集体制の確保と維持が必要不可欠であり、併せて購入計画に基づき、環境に配慮した車両への買替を実施。	項目	実績	単位
		買替台数	8	台
事業の成果 【定性的評価】	市民全体を対象としている事業のため、公平性に関しては適正である。また、次世代車の調査・研究を行い、本市の収集体制及び環境対策を総合的に勘案しながら、買替計画に基づき車両の買替を実施した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	塵芥車等の買替台数			指標・目標値の説明(算定式)	塵芥車買替計画に基づく買替台数		
	単位	台	指標の種別	活動				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	8	8	8	0	0		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	003細目	01細々目	車両経費	
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	118,401	119,825	110,626	47,611	47,611			
決算額(B)=(C)+(D)	112,020	110,594	102,791					
財源※	特定財源(C)	515	542	514	494			
	一般財源(D)	111,505	110,052	102,277	47,117			
概算人件費(E)	3,510	3,555	3,555	3,555	3,555			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.45	0.00	0.45	0.00	0.45	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	115,530	114,149	106,346	51,166	51,166			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	平成23年度から、塵芥車買替計画に基づき、車両の入替を行っている。環境や安全に配慮した車両を導入していくほか、災害等に適正な運用ができるよう、燃料区分のバランスを考慮しながら入替を行っている。令和元年度で買替計画が終了し、令和7年度から第二次塵芥車買替計画を開始する。	2年度 縮小して実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200111	事業名称	産業廃棄物対策事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	産業廃棄物対策課	問い合わせ先	228-5380	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 30 年度 ~ 平成 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物処理施設の設置等の手続に関する条例、川口市土砂の堆積等の規制に関する条例

2 事業概要

事務分類	法定受託事務	実施形態	一部委託												
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・産業廃棄物処理業者 ・産業廃棄物排出事業者 ・その他、産業廃棄物に関係する事業者 ・土砂を堆積する事業者	受益者(最終的に受益を受ける人) ・市民等													
事業の概要	事業の目的(何のために) ・産業廃棄物の適正な処理及び廃棄物処理施設の適正な維持管理を確保することにより、良好な生活環境の保全を図る。 ・土砂を堆積する行為に対して、必要な規制を行うことで無秩序な土砂の堆積を防止し、市民の生活の安全の確保と、良好な生活環境の保全を図る。	事業の内容(事業期間を通して何をするのか) ・許可申請等に対する審査 ・不適正処理の防止のための指導 ・土砂の堆積行為に係る規制													
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・産業廃棄物処理業の許可申請等に対する審査 ・産業廃棄物処理施設の適正な維持管理の指導 ・土砂の堆積に係る許可申請、定期報告等に対する審査 ・産業廃棄物の不適正処理や土砂の堆積に関する監視・パトロール及び、立入検査、指導	主な実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産業廃棄物等に係る許可申請・変更届等の受理</td> <td>64</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>土砂の堆積に係る許可申請、定期報告等の受理</td> <td>11</td> <td>件</td> </tr> <tr> <td>立入検査の実施</td> <td>704</td> <td>件</td> </tr> </tbody> </table>		項目	実績	単位	産業廃棄物等に係る許可申請・変更届等の受理	64	件	土砂の堆積に係る許可申請、定期報告等の受理	11	件	立入検査の実施	704	件
項目	実績	単位													
産業廃棄物等に係る許可申請・変更届等の受理	64	件													
土砂の堆積に係る許可申請、定期報告等の受理	11	件													
立入検査の実施	704	件													
事業の成果 【定性的評価】	産業廃棄物の不適正処理の未然防止、廃棄物処理施設の適正な維持管理を確保することにより生活環境に大きく影響を与える事案の発生を防止できた。また、土砂の堆積に係る規制を行うことで、無秩序な土砂の堆積を防止できた。														

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	立入検査実施件数			指標・目標値の説明(算定式)	産業廃棄物処理業者や土砂の堆積事案等に係る立ち入り検査の実施件数				
	単位	件	指標の種別	活動						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況		569 達成	704 達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別								
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	03目	001細目	02細々目	産業廃棄物対策事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度	令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	—	18,213		6,489	4,098	4,098				
決算額(B)=(C)+(D)	—	16,857		5,782						
財源※	特定財源(C)	534		1,120	691					
	一般財源(D)	16,323		4,662	3,407					
概算人件費(E)	—		49,375	43,845	42,265	39,500				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	6.25	0.00	5.55	0.00	5.35	0.00	5.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	—		66,232	49,627	46,363	43,598				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性		
58 /60	市が独自で作成した外国語版リーフレットを使用することで、効率的に外国人による解体系産業廃棄物の適正処理を指導することができた。 また、土砂の堆積事案についての適正な審査を行うとともに、定期的な監視パトロールを実施することで、無秩序な土砂の堆積を防止することができた	2年度	現状維持で実施	
		3年度	現状維持で実施	
		4年度	現状維持で実施	

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200201	事業名称	戸塚環境センター整備事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	新戸塚環境センター建設室	問い合わせ先	258-1110(#35-1375)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 28 年度 ~ 令和 10 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営							
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)								
	ごみ焼却施設と粗大ごみ処理施設	一般廃棄物を排出する市民及び市内事業者								
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)								
	川口市一般廃棄物処理施設整備基本計画に基づき、計画的に施設の整備を行うことで安定的なごみ処理体制の確保を図り、循環型社会の構築に資すること。	戸塚環境センター東棟等を解体し、新たなごみ焼却施設と粗大ごみ処理施設を建設する。								
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績								
	<ul style="list-style-type: none"> 川口市戸塚環境センター施設整備基本設計の策定。 環境影響評価準備書の策定及び説明会の開催。 庁内検討委員会の開催。 施設整備に係る住民説明会の開催。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>実績</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>庁内検討委員会</td> <td>2</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>住民説明会(施設整備及び環境影響評価)</td> <td>5</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	実績	単位	庁内検討委員会	2	回	住民説明会(施設整備及び環境影響評価)	5
項目	実績	単位								
庁内検討委員会	2	回								
住民説明会(施設整備及び環境影響評価)	5	回								
事業の成果 【定性的評価】	平成30年度から2か年で行っていた、川口市戸塚環境センター施設整備基本設計を策定した。環境に及ぼす影響について、調査・予測・評価した環境影響評価準備書を策定した。庁内検討委員会を開催し、基本設計の内容について審議した。									

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	04目	003細目	01細々目	戸塚環境センター整備事業			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	30,532	86,826	84,786	55,122	1,247,541					
決算額(B)=(C)+(D)	30,024	86,458	84,033							
財源※	特定財源(C)	10,584	28,666	27,433	2,194					
	一般財源(D)	19,440	57,792	56,600	52,928					
概算人件費(E)	31,746	73,628	73,786	73,786	79,000					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	4.07	0.00	9.32	0.00	9.34	0.00	10.00	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	61,770	160,086	157,819	128,908	1,326,541					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どりの	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性						
54 /60	○環境影響評価準備書を元に、県の技術審議会に諮り、環境影響評価書を作成する。○基本設計を元に、新施設の建設と運営管理を行う民間事業者を選定するため、条例による事業者選定委員会を設置し、審議を行う。○施設整備について、周辺住民の理解を得るため、引き続き、説明会等を実施する。	<table border="1"> <tr> <td>2年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>現状維持で実施</td> </tr> </table>	2年度	現状維持で実施	3年度	現状維持で実施	4年度	現状維持で実施
2年度	現状維持で実施							
3年度	現状維持で実施							
4年度	現状維持で実施							

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200301	事業名称	厚生会館施設管理費	事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	52	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進				
根拠法令等	川口市厚生会館設置及び管理条例				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	(公社)シルバー人材センター	市民(主に戸塚環境センター周辺の地域住民)	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	戸塚環境センター焼却炉の余熱を利用し、市民の健康保持と福祉の増進に寄与するとともに、地域住民還元施設として設置運営	入浴施設及び交流スペースを提供している。施設を利用する際、大人220円(令和元年9月までは210円)、60歳以上100円、小人100円の使用料を徴し、月曜祝日を除き、午前10時から午後5時開館	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	入浴施設の運営・修繕。	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	エネルギーの再利用を通じて、周辺地域住民にごみ処理施設への理解を深めてもらった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	入館者数			指標・目標値の説明(算定式)	実績による入館者数を目標値とするもの。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	28,337	未達成	25,998	未達成	22,023	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別							
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	002細目	02細々目	厚生会館施設管理費			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	14,554	14,517	16,548	40,720	40,720					
決算額(B)=(C)+(D)	13,180	14,157	15,582							
財源※	特定財源(C)	3,258	2,898	2,904	2,497					
	一般財源(D)	9,922	11,259	12,678	38,223					
概算人件費(E)	624	632	632	632	632					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00	0.08	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	13,804	14,789	16,214	41,352	41,352					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
50 /60	施設の更新時には、運営方法について見直しが必要である。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200401	事業名称	戸塚環境センターまつり開催事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	4	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - ③ 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進				
根拠法令等					

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	戸塚環境センターの周辺地域住民	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	ごみに対する認識と、積極的なリサイクル思想の推進及び周辺地域住民にごみ処理施設への理解を深めてもらうため。	周辺地域住民を招いてのイベント開催		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	1米の無料配布 2ごみまるステージ(ライブなど) 3施設見学 4町会による模擬店 5リサイクル自転車の販売 6子供用トランポリン 7空き缶プレスカーの実演 8科学館・わかゆり学園・環境保全課・資源循環課・社会福祉協議会による出展	項目	実績	単位
		米の無料配布	1,000	人
		子供用トランポリン	240	人
事業の成果 【定性的評価】	ごみ処理施設への理解と、資源循環型社会への知識を深めてもらった。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	来場者数			指標・目標値の 説明(算定式)	実績による来場者数を目標値としているもの。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	5,000		5,000		5,000		5,000		5,000
	4,511 未達成		4,569 未達成		3,245 未達成					
指標②	名称	施設見学会参加者数			指標・目標値の 説明(算定式)	見学会の開催回数と参加予定人数の80%を目標値とするもの。				
	単位	人	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度
	実績値・達成状況	80		80		80		80		80
	160 達成		150 達成		100 達成					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	003細目	01細々目	戸塚環境センターまつり開催事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	3,938	3,906		4,129		4,507		4,507		
決算額(B)=(C)+(D)	3,611	3,745		3,902						
財源※	特定財源(C)	0		0		0		0		
	一般財源(D)	3,611		3,745		3,902		4,507		4,507
概算人件費(E)	4,524		4,582		4,582		4,582		4,582	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00	0.58	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	8,135		8,327		8,484		9,089		9,089	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	11 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	どちらともいえない	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	来場者数の増加を目標としており、開催内容の変更及び周知方法の改善を継続して行う。 また、施設更新時の開催については休止を含め検討を要する。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200501	事業名称	戸塚環境センタープラント運営費			事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進		
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設・破砕機設備	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保全上、支障が生じないように処理することを目的とする。	市内の家庭や事業者から排出される廃棄物を安定的かつ適正に処理するため、ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な運転管理及び保守管理を行う。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な運転管理 ごみ焼却施設・破砕機設備の適正な点検整備	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	ごみの処理を停滞させることなく、安全かつ安定的に運転することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	ごみ焼却量			指標・目標値の説明(算定式)	予算編成時の計画ごみ焼却量		
	単位	トン	指標の種別	結果				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況	58,041	64,432	64,301				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)			
	単位		指標の種別					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	004細目	01細々目	戸塚環境センタープラント運営費	
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	860,897	865,500	869,802	935,474	935,474			
決算額(B)=(C)+(D)	800,621	856,029	860,975					
財源※	特定財源(C)	501,275	581,247	626,719	643,387			
	一般財源(D)	299,346	274,782	234,256	292,087			
概算人件費(E)	133,068	134,774	134,774	134,774	134,774			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	17.06	0.00	17.06	0.00	17.06	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	933,689	990,803	995,749	1,070,248	1,070,248			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	本施設は老朽化しており、適切な運転管理と点検整備を実施することで、一般廃棄物を安全かつ安定的に処理していかなければならない。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200701	事業名称	戸塚環境センターごみ処理事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	戸塚環境センター	問い合わせ先	295-0131	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進		
根拠法令等	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例		

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	ごみ焼却施設から搬出される焼却灰等	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	廃棄物の適正処理	焼却及び破砕による中間処理後の残渣物の再資源化処理及び最終処分		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 埋立による最終処分を削減するため、焼却灰等を溶融スラグや建設資材にする等、再資源化を推進。	主な実績		
		項目	実績	単位
事業の成果 【定性的評価】	複数の最終処分場や再資源化処理プラントと委託契約を締結し、中間処理後の残渣物について安定的な処分を行った。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	焼却灰・残渣金属の再資源化推進			指標・目標値の説明(算定式)	再資源化量の実績値のみ(朝日環境センターとごみ焼却を補完し合っているため、再資源化量の目標値設定は不可能)			
	単位	トン	指標の種別	活動					
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	実績値・達成状況	6,820.22	7,643.10	7,687.94					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)				
	単位		指標の種別						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	006細目	01細々目	戸塚環境センターごみ処理事業			
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度					
予算額(A)	215,190	214,317	238,365	237,542	237,542					
決算額(B)=(C)+(D)	186,915	210,905	238,191							
財源※	特定財源(C)	4,128	3,921	3,749	3,731					
	一般財源(D)	182,787	206,984	234,442	233,811					
概算人件費(E)	8,268	8,374	8,374	8,374	8,374					
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.06	0.00	1.06	0.00	1.06	0.00	1.06	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	195,183	219,279	246,565	245,916	245,916					

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	残渣物の再資源化を推進することが課題。 今後も残渣物の再資源化研究を進め、安定的かつ適正なごみ処理を行う。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43200801	事業名称	朝日環境センタープラント運営費	事業区分	通常事業
担当	環境部	朝日環境センター	問い合わせ先	258-1110(#35-1423)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設	家庭系廃棄物を搬出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保全上支障が生じないように処理することを目的とする。	市内の家庭や事業者から排出される廃棄物を安定的かつ適正に処理するため、ごみ焼却施設の適正な運転管理及び保守管理を行う。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ごみ焼却施設の適正な運転 ごみ焼却施設の適正な点検整備	項目	実績 単位
		ごみの焼却処分	88,871.90 トン
事業の成果 【定性的評価】	ごみの処理を停滞させることなく、安全かつ安定的に運転することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	005細目	01細々目	朝日環境センタープラント運営費
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
予算額(A)	1,354,208	1,306,702	1,400,164	1,403,733	1,484,157		
決算額(B)=(C)+(D)	1,290,049	1,254,573	1,359,416				
財源※	特定財源(C)	819,159	804,875	784,490	779,104		
	一般財源(D)	470,890	449,698	574,926	624,629		
概算人件費(E)	17,940	18,170	18,170	18,170	18,170		
従事職員人数(人)	常勤 再任用	2.30 0.00	2.30 0.00	2.30 0.00	2.30 0.00	2.30 0.00	2.30 0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	1,307,989	1,272,743	1,377,586	1,421,903	1,502,327		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	稼働開始から17年を経過したことから各設備の劣化が激しく、大規模改修までの間も相当の補修費がかかる見込みであるが、本事業で実施する日常の適正な運転管理と適切な定期点検整備により、コストを最小限にとどめる。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43201001	事業名称	朝日環境センターごみ処理事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	朝日環境センター	問い合わせ先	258-1110(#35-1423)	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例・同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	ごみ焼却施設から搬出される資源物・焼却灰等	家庭系廃棄物を排出する市民 事業系一般廃棄物を排出する事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	廃棄物を公衆衛生や生活環境の保障上支障が生じないように処理することを目的とする。	ごみ焼却施設から搬出される資源物の運搬及び焼却灰等の運搬・処分	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	ごみ焼却施設から資源物である溶融スラグの搬出 ごみ焼却施設から搬出される焼却灰等の運搬・埋立処分	項目	実績 単位
		ごみの埋立処分	4,231.03 トン
事業の成果 【定性的評価】	安全に運搬及び埋立処分を行った。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	006細目	02細々目	朝日環境センターごみ処理事業
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度		
予算額(A)	207,543	208,787	203,607	207,603	207,603		
決算額(B)=(C)+(D)	192,029	180,403	194,425				
財源※	特定財源(C)	0	0	0	0		
	一般財源(D)	192,029	180,403	194,425	207,603		
概算人件費(E)	3,900	3,950	3,950	3,950	3,950		
従事職員人数(人)	常勤 再任用	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00	0.50 0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	195,929	184,353	198,375	211,553	211,553		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	最終処分場を有しない本市においては、他区域における処分場の確保が大きな課題であるが、各場の残余期間等、当面の問題はなく、引き続き安定的な最終処分の実施に努めていく。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43201101	事業名称	鳩ヶ谷衛生センターごみ処理事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	粗大ごみから分別された資源物等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の一般廃棄物のうち粗大ごみを自己搬入する川口市民 ・事業系一般廃棄物のうち粗大ごみを自己搬入する市内事業者 		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみを受理、分別、運搬し廃棄物の適正な処理を行う。 ・粗大ごみを公衆衛生や生活環境の保全上支障が出ないよう処理することで市民の健康で快適な生活を確保する。 ・粗大ごみの再生利用を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみの受理、分別、運搬 ・資源物の売却 		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民等が自己搬入した粗大ごみを分別し、再生利用できないものは、市内の環境センターに運搬し処分した。 ・ゴールデンウィークと年末の閉庁日に自己搬入の受理を実施した。 ・鉄やアルミなどの資源物を市内の専門業者に売却した。 	項目	実績	単位
		粗大ごみ自己搬入の受理実施日数	244	日
事業の成果 【定性的評価】	<ul style="list-style-type: none"> ・粗大ごみを受理した重量 1722.88トン ・資源物(鉄、アルミ、ケーブル類)の売却 重量 258.51トン 売却額 888,750円 	上記のうち閉庁日の受理実施日数	4	日

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	資源物(鉄、アルミ、小型家電)の売却			指標・目標値の説明(算定式)	粗大ごみから分別した資源物を市内の専門業者に売却し、売上げ金を市政の財源に充てる。 目標値・・・該当年度の歳入予算額				
	単位	金額(円)以上	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	2,079,786	達成	2,278,038	未達成	888,750	未達成			
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別								
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	06目	006細目	03細々目	鳩ヶ谷衛生センターごみ処理事業				
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度	令和3年度				
予算額(A)	39,279	37,499		38,587		41,173	41,173				
決算額(B)=(C)+(D)	38,436	37,198		38,018							
財源※	特定財源(C)	2,079	2,278		889		2,226				
	一般財源(D)	36,357	34,920		37,129		38,947				
概算人件費(E)	28,138	28,309		25,465		25,465	25,465				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.71	4.00	1.71	4.00	1.35	4.00	1.35	4.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	66,574		65,507		63,483		66,638		66,638		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	資源物売却は市場が不安定であることから、売却できる品数減少、価格低下が続いている。今後も廃棄物の分別を徹底し、資源物確保を強化する。自己搬入の増加から、混雑時等は場内外の車両整理、搬入物のスムーズな内容確認が課題となっている。車両誘導委託を新規に設ける等で、利用者が安全で効率的に搬入ができるよう対策を図る。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43201251	事業名称	し尿処理施設管理費			事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・市内で発生するし尿、浄化槽汚泥 ・川口市一般廃棄物収集運搬業許可業者(し尿・浄化槽汚泥)	・市内のトイレ(し尿汲取り方式、浄化槽方式)を利用する全ての市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	・市内から収集したし尿、浄化槽汚泥を適切に処理し、公衆衛生や生活環境の保全上支障が出ないよう、市民の健康で快適な生活を確保する。 ・し尿、浄化槽汚泥処理に伴う環境への負荷を削減する。	・し尿処理施設の運転管理、維持管理 ・し尿処理施設周辺の環境衛生の保全 ・処理後発生する脱水汚泥の肥料・堆肥への再資源化		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・許可業者が市内から収集したし尿、浄化槽汚泥を処理し、無色透明できれいな処理水を河川に放流した。 ・処理後発生する脱水汚泥を専門業者(市外)へ運搬し、再資源化した。 ・水質などの環境測定を定期的に実施した。	項目	実績	単位
事業の成果 【定性的評価】	・し尿、浄化槽汚泥の搬入量 37167.4キログラム、再資源化業者への搬出量 952.9トン ・水質、騒音、振動、臭気、放射性セシウムの環境測定の結果は、全て法定基準値内で適正であった。	し尿、浄化槽汚泥の受入れ日数	295	日
		環境測定分析の実施回数(放流水質)	12	回/年

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	環境測定の結果			指標・目標値の説明(算定式)	水質、騒音、振動、臭気、放射性セシウムの環境測定について、年間を通じて法定基準値内を目指す。				
	単位	—	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	全て適正	全て適正	全て適正	全て適正	全て適正				
指標②	名称	脱水汚泥の含水率(年間平均)			指標・目標値の説明(算定式)	廃棄物として排出する量を減らすため、また再資源化に適した状態にするため、脱水汚泥の含水率(年間平均)75%以下を目指す。				
	単位	%以下	指標の種別	結果						
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
	実績値・達成状況	74.50	75	75	74.90	達成				

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	08目	002細目	02細々目	し尿処理施設管理費			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	206,503	211,212		224,076		220,588		220,588		
決算額(B)=(C)+(D)	195,214	205,157		213,386						
財源※	特定財源(C)	120	133		151		150			
	一般財源(D)	195,094	205,024		213,235		220,438			
概算人件費(E)	14,664	14,852		15,405		15,405		15,405		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.88	0.00	1.88	0.00	1.95	0.00	1.95	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	209,878	220,009		228,791		235,993		235,993		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
54 /60	施設の老朽化により、設備の不具合発生が懸念される。別途設立した、し尿処理施設改修事業で整備を進めると共に、環境省が提示した「インフラ長寿命化計画」の策定を新規に委託することで、施設の安定稼働が維持できるよう対策を図る。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43201301	事業名称	し尿収集事業			事業区分	通常事業
担当	環境部	鳩ヶ谷衛生センター	問い合わせ先	281-5043	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、廃棄物の減量及び適正処理に関する条例、同施行規則

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・市内のし尿汲取り世帯、事業者 ・市内のし尿汲取り実施業者(し尿処理事業許可業者)	・市内のし尿汲取り世帯、事業者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	・市民の生活環境や公衆衛生に支障が生じないよう、し尿を収集運搬し適切に処理する。 ・水害など災害時に市民の環境衛生を保持するため応急汲取りを実施する。 ・し尿汲取り世帯の費用負担を軽減し、業者を育成する。	・委託業者によるし尿収集運搬(鳩ヶ谷地区、朝日3丁目) ・し尿処理事業許可業者への助成金の交付		
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・委託業者による、し尿収集運搬業務(鳩ヶ谷地区、朝日3丁目の一部) ・し尿処理事業許可業者への助成金交付 ・し尿汲取り世帯に対する、し尿収集運搬手数料の納付管理、督促	項目	実績	単位
		し尿収集運搬の実施(鳩ヶ谷地区)	9,999	件
し尿収集運搬の実施(朝日3丁目の一部)		64	件	
事業の成果 【定性的評価】	・し尿収集運搬手数料の納付額(3/31時点、滞納繰越分を含む) 2,250,610円 ・市民の費用負担軽減のため、し尿処理事業許可業者14者へ助成金(応急汲取り分を含む)を交付 5,547,420円			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	し尿収集運搬手数料の納付額(3/31時点)			指標・目標値の 説明(算定式)	該当年度の、し尿収集運搬手数料の歳入予算額(滞納繰越分を含む)に対して90%以上の納付を目指す。 目標値…令和元年度予算額×0.9=2,044,800円				
	単位	金額(円)以上	指標の種別	結果		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値				2,730,884	2,306,700	2,044,800			
	実績値・達成状況				2,873,860	達成	2,493,670	達成	2,250,610	達成
指標②	名称				指標・目標値の 説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	04款	02項	08目	003細目	01細々目	し尿収集事業			
年度	平成29年度	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		
予算額(A)	17,999	17,188		16,600		16,163		16,163		
決算額(B)=(C)+(D)	17,030	16,224		15,601						
財源※	特定財源(C)	2,972	2,515		2,336		2,065			
	一般財源(D)	14,058	13,709		13,265		14,098			
概算人件費(E)	7,410	7,505		7,505		7,505		7,505		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00	0.95	0.00
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	24,440	23,729		23,106		23,668		23,668		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	どちらともいえない			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
52 /60	し尿収集事業は、災害時等には市民の健康と公衆衛生の保全のため重要となるが、下水道の普及により汲取り世帯が減少し、し尿処理許可業者の収集効率の低下と負担増加が問題となっている。し尿処理事業助成金の見直し等により、事業が安定して継続できるよう対策を図る。	2年度	現状維持で実施
		3年度	現状維持で実施
		4年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	元年度
--------	-----

事業コード	43201351	事業名称	一般廃棄物処理基本計画策定事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	資源循環課	問い合わせ先	228-5370	新規・継続
					新規

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 元 年度 ~ 令和 元 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民、事業者等	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	計画的なごみ処理の推進を図るための基本方針として、ごみの排出抑制及びごみの発生量から最終処分に至るまでの、ごみの減量、再資源化及び適正な処理等を進めるために必要な基本的事項を定める計画を策定するものである。	一般廃棄物処理基本計画は、概ね5年ごとに改定するとともに、前提諸条件の大幅な変動時には見直すこととされており、平成24年度に策定した現行計画の進捗状況等を検証するとともに、第5次総合計画、第3次環境基本計画に即し、現行計画を全面的に見直すもの。	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	市民、事業者アンケートの結果やパブリックコメント、廃棄物対策審議会及び市議会の特別委員会の意見を参考に、達成目標や各施策の作成等を行い、第7次一般廃棄物処理基本計画を策定した。	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	第7次一般廃棄物処理基本計画を策定した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)			
	単位	指標の種別				
	目標値	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	4 款	2 項	2 目	57 細目	51 細々目	一般廃棄物処理基本計画策定事業	
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度			
予算額(A)	—	—	9,288	—	—			
決算額(B)=(C)+(D)	—	—	9,240					
財源※	特定財源(C)	—	—	0	—			
	一般財源(D)	—	—	9,240	—			
概算人件費(E)	—	—	2,923	—	—			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	—	—	0.37	0.00	—	—
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	—	—	12,163	—	—			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	法令で策定が義務付けられており、また、廃棄物の排出抑制及び適正処理を進めるうえで重要な計画である。進行管理を適切に実施し、事業を進めていく必要がある。	2年度 休止 3年度 休止 4年度 休止

実施計画事業評価調査

評価対象年度 元年度

事業コード	43201401	事業名称	PCB廃棄物調査指導事業	事業区分	通常事業
担当	環境部	産業廃棄物対策課	問い合わせ先	228-5380	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	令和 1 年度 ~ 令和 9 年度
第5次川口市総合計画	IV 都市と自然が調和した“人と環境にやさしいまち” - 3 廃棄物の減量化・再資源化・適正処理の推進 - ② 廃棄物の適正処理の推進
根拠法令等	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律

2 事業概要

事務分類	法定受託事務	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	PCB廃棄物等を所有している事業者 電気工事事業者	市民等 PCB廃棄物を保有している事業者	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	高濃度のPCB廃棄物は、その種類ごとに令和3年度または令和4年度末までに、また、低濃度のPCB廃棄物は令和9年度末までに処分しなくてはならない。そのため、処分対象者を把握し指導することで、期限までの適正処理を図る。	PCB廃棄物の保有状況の把握及び適正処理の指導	
元年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・PCB廃棄物等の保有状況の把握(掘り出し調査) ・PCB特措法に係る届出等の受理 ・PCB廃棄物保管事業者等への立入検査等による適正処理の指導	項目	実績 単位
		PCB廃棄物所有状況調査の進捗(安定器)	7,293 件
		PCB特措法に係る届出等の受理	405 件
事業の成果 【定性的評価】	PCB廃棄物の保有者を把握し指導したことで、PCB廃棄物の適正処理が進展した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	PCB廃棄物所有状況調査の進捗(変圧器等)		指標・目標値の説明(算定式)	PCB廃棄物の所有が疑われるものの、所有状況を把握出来ていない事業者の件数(変圧器・コンデンサ)(H30当初 約1,300件)(R1 P協データ 600件分が増加)の減。				
	単位	件(以下)	指標の種別		成果	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値				650	800	100		
	実績値・達成状況				787	未達成	776	達成	
指標②	名称			指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
	目標値								
	実績値・達成状況								

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	4 款	2 項	3 目	1 細目	4 細々目	PCB廃棄物調査指導事業		
年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
予算額(A)			34,809	22,998	20,000				
決算額(B)=(C)+(D)			34,761						
財源※	特定財源(C)		0	0					
	一般財源(D)	0	0	34,761	22,998				
概算人件費(E)	0	0	10,270	14,220	22,120				
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.30	0.00	1.80	0.00	2.80	0.00	
総事業費{(A)又は(B)}+(E)	0	0	45,031	37,218	42,120				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	民間委託により効率的にPCB廃棄物等の保有状況の調査を行った。 当該調査において受託者では対応できない事例などに立入調査等を行うことで、PCB廃棄物等の適正な処理を指導した。	2年度 現状維持で実施 3年度 現状維持で実施 4年度 現状維持で実施